

6. 令和4年度 基準範囲共用化委員会報告

Report from the committee on common-use reference interval in 2022

堀田 多恵子 (基準範囲共用化委員会委員長、九州大学病院検査部技師長)
**Taeko Hotta (Chairperson of the committee on common-use reference interval,
Chief Medical Technologist for Kyushu University Hospital)**

活動内容：

共用基準範囲の適応範囲拡大に努めた。

る採血かどうかについて

・真崎 玲子様 電解質の差異 (動脈血)

委員会開催：

2022年9月22日～10月27日 書面会議
共用基準範囲の手引き改訂について

2. 共用基準範囲採用%の推移調査

日本医師会、日本衛生臨床検査技師会の精度管理調査アンケートから年次採用率の推移を調査し、いずれのアンケートにおいてもR1年度より、採用している医療機関が増加していることを確認した。(平均採用率 日臨技 R3 37.8% → R4 40.9%)

特にALPはIFCC法への変更に伴い採用した施設を多く認めた。(84.9%)

状況報告：

1. 共用基準範囲について下記の転載申請があり、審議の上、許可した。

- ・株式会社メディカルデータ
「検査と適応疾患 令和4年4月版」
- ・標準病理学 第7版 「表10-1 末梢血の検査と正常値 (百瀬修二先生執筆)」
- ・鹿児島県医師会 R4年度鹿児島県医師会精度管理調査報告書
下記の間合せについて回答した。
 - ・牛尾 葉子様 共用基準値は空腹時におけ

3. 共用基準範囲の手引きの改訂

ALPおよびLDをIFCC準拠にした際に、一覧表の改訂を行なったが、手引きの改訂を行っていなかったため2022/9/22版として改訂した。